

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2018年7月24日（火）19:30~

会場：添島歯科クリニック研修室

— 一般講演抄録1 —

## 下顎側切歯先天性欠損を矯正およびインプラントを用いて治療した1症例

共愛会 共愛歯科医院 三村彰吾 〒861-2231上益城郡益城町安永722-4

### ■ 略歴

1997年 鹿児島大学歯学部卒業

1997年~2000年 長崎大学歯学部附属病院勤務

2000年 医療法人共愛会勤務

2005年 長崎大学大学院卒業

### ■ 所属

日本臨床歯科医学会 熊本支部

日本口腔インプラント学会

日本歯周病学会

日本補綴学会

熊本歯科三水会

### ■ 抄録

患者は、31歳女性で開咬と前歯部審美障害が主訴で来院した。下顎右側側切歯の先天性欠損があり、下顎前歯部は歯間空隙が存在していた。また上顎前歯部は叢生があり、6前歯は開咬であった。口腔内に補綴物はなく、コンポジットレジン修復が数歯存在するだけであったので矯正治療を第一選択と考えた。骨格的にはほぼ問題なかったため上顎左右第一小臼歯を抜歯し下顎はThree incisorsにするのか上顎を非抜歯で下顎を拡大し先天性欠損部に修復治療をするのかの2通りが考えられた。患者が抜歯はできるだけ避けたいということとプロファイルにおいては不満がなかったため後者の方で治療することにした。

矯正治療終了後、下顎右側側切歯にはストロマン社の径が3.3mm、長さが10mmのボーンレベルインプラントを埋入し上部構造物を装着した。

現在、患者は審美的機能的に満足しているが、咬合が少し理想的でないところもあり、今後経過を見ていく必要がある。

この発表における利益相反は無し。